

川越の湯遊ランド・ホテル三光に、関西の人気劇団近江飛龍が登場した。荒事もこなし活力あふれる劇団で、男性にも人気があるという。率いる近江飛龍座長に話を聞いた。

8代目の座長

—劇団名の「近江」とは、近江の国と関わりがあるの

—現在の劇団にご家族は、
飛龍 5名います。家内と子ども2人です。それと家内の父親が。
—お子さんはおいくつですか。
飛龍 子どももついて歩く

荒事こなし男性にも人気の大衆演劇

近江飛龍

—ですか。
飛龍 初代の創立者は大正時代の方ですが、近江出身だと聞いています。僕で8代目になります。
—初代はご先祖ではないのですか。
飛龍 そうではありません。—ご両親は劇団におられたのですか。
飛龍 そうですね。僕は13歳の時から、舞台上に上がっていました。
—現在のお年は。
飛龍 39歳です。

飛龍 小学生です。まだ、舞台には出ていません。
—劇団員の数は。
飛龍 今、子どもも合わせて12名です。
—劇団の人たちは各地を転々とされるわけですが、住所

—子どもは移動の時はどうするのですか。
飛龍 子どももついて歩く
—どうなっているのですか。
飛龍 住所は固定していません。
—子どもは移動の時はどうするのですか。
飛龍 子どももついて歩く



おねりの途中、川越市内蔵里で

飛龍

業界の異端児

—大衆演劇の中で、近江飛龍さんの特徴は何だと言ったらよいですか
飛龍 そうですね。自分では言うのもなんですが、昔はこの業界の異端児と言われました。人がやらないことばかり、今皆さんがあたりまえのようにやっていることを先駆けてやっています。当時はだいぶ批判はあったんですが、今はそれが普通になってきている。うちは20年前からまったくやり方は変わっていないんです。
—今現在の他との違いは。



湯遊ランドでの公演

—太鼓は
飛龍 12歳
の時からド
ラムをやっ
て、16から
和太鼓の道
に入って。
月に2、3
回、舞台で
たきます。
—今、一番
力を入れて
いることは、
飛龍 高齢
になって観
にこれない
方もたくさ
んいらっしや

—お年寄りだけでなく、いろいろな年齢層に楽しんでもらいたい。1つのエンターテインメントとして作り上げていきたいというのが、僕の目標なんです。
時代は変わっていくから、昔は国定忠治がいいとかいう方が多かったですが、近年はジュリーとかグループサウンズがいいという方がお年寄りでも出てきました。そっちのニーズに合わせていっているのが事実です。
やすみがないのがしん

わからないうが、波が来るんです。波がビツグウエーブになった時には、ものすごく気持ちいいです。ああこれだと。300人いたら300人全員が楽しんでるな、感動しているなという時です。
—逆にしんどいのは何



蔵の街 一番街を練り歩く

太鼓と、荒事（あらじ）が得意です。
それと、女の方もさることながら、男の方のファンが多いことが言えます。普通の劇団は女性のファンがすごく多いんですが、うちは男の人が4割くらいいます。男の方が寄ってくるというか。年齢層も下から上まで幅が広い。

歌も太鼓も得意

—歌も歌うのですね。
飛龍 一応歌手だったんです。CDを何枚か出したんです。

お客さんに大きな波ができるのが喜び

ですが、一足のわらじがちよつときつくて。

います。この間まで元氣に來られていた方が、ヘルパーの方と一緒に見えられるようになったり。新しい40代、50代の方に来ていただきました。そういう方を呼び寄せ

どい

—うれしいのは、どんな時ですか。
飛龍 やはりお客さんに喜んでいただく時が一番うれしいです。

—舞台に立って、いる人間しか

—ですか。
飛龍 とにかく、休みがないのは苦しいですね。僕も今活動を起こそうかと思っ
ているくらいです。休みは1ヶ月に2回。劇団の移動日も1日しかないんです。九州から東京でも1日しかない。眠らずに車を運転してきて、仕込みに入ってすぐという形が増えています。お客様にはわからないこと

思っていたより ノリがいい川越

なんです、改善しないと
ならない。

それがないと、舞台で夢
を与えなければならぬ

人間が夢を失ってきてい
る。あまりの激務に。僕

たちの同年代の役者さん
が、これまでがんばって

きた、お年をめした役者
さんを見てあなりたく

ないと。夢を与えるため
には、夢を見なければな

らない。今は夢を探して
いる途中ですね。そうし

ないと、この業界も危な
いですね。

—このような涙と笑の出し
物は今の社会で求められて

いて、ニーズは高まるよう
な気がします。

飛龍 そうなればいいん
ですが。関東は西日本に比べ

こういう場所が少ないので、
もう少し増えればと思います
。大阪府内に、こういう

演芸場が14、5軒あります。

—普段、大阪で出演するの
はどこですか。



飛龍 朝日劇場（大阪市浪
速区）というところです。

多分日本で一番設備が整っ
ているのではないでしょう

か。

—今回関東は久しぶりです
か。

飛龍 1年半ぶりです。川
越は初めて。

—今後の予定は。

飛龍 この後、江戸川区の
小岩、その後浅草の木馬館、

そして十条の篠原演
芸場。4ヶ月関東に

います。

—川越の印象は。

飛龍 思っていたよ
りノリがいいのでびっ

くりしています。よ
そ者扱いで見られる

かなと思っていたん
ですが。打ち解けて

ワイワイやってくれ
るのでうれしいです
ね。

—お客さんは追っかけてこ
られる人が多いのですか。

飛龍 多いですね。大阪か
らの方も初日あたりはだい
ぶいました。

交通事故に遭う

—交通事故に遭われた。

飛龍 2月26日に三重県の
公演中に起こりました。正
面衝突でした。

—怪我は。

飛龍 奇跡的に軽傷で済み
ました。14人乗りのハイエ
スに乗っていたんですが、

僕は一番後ろで、完全に寝
ていたんです。多分力が入
らないまま飛んだ。気がつ

いたら運転席にいましたの
で、これは事故だな。外

に飛び出していたら、終わっ
ていました。

—前から体の具合がよくな
いのですか。

飛龍 足が元々悪いんです。
医者から治らないと言われ

ていますので、かばいな
がらです。去年、踊れる状態

ではなかったんですが、ど
うにか足をひきずって舞台

に立ったら、お客さんは喜
んでくれるんですが、「元

気のない座長は見たくない」
と言われた。この時には、

引退かなと思いました。

—今は。

飛龍 体も徐々に良くなっ
てきています。その矢先の

交通事故でしたので一瞬気
が滅入ったんですが、前向
きがんばらなければなら

ないと思っています。